

日日進歩

会報文中の[番号]は、会員番号を示します。
Hong Kong Public Transport Tourism Association ©

大阪で 香港に 出会う

[001] 小柳 淳

3月のある日、パソコンの画面に「エッ」と声をあげてしまいました。香港の街や店のミニチュア展が、日本で開催されるというではありませんか。すでに会期に入っていて、最終日の日曜日までは5日ほどしかありません。



1950~80年代くらいの雰囲気集合住宅や仮設劇場、飲食店や大排檔、違法建築のバラックもあるようです。おおっ、見てみたい。ところが、会場は大阪、のみ。東京には来ないんだ。ああ悔しいと思いつつ、東京以外に住んでいる人はこういう思いをすることが多いのだろうな、とも感じました。

今日の日曜日は仕事が入っているし、金曜日はお彼岸なのでお墓参り。まあ、当然無理だよなあ、見たいな〜とウジウジ考えること1日半。ああそうか、墓参の後に出発すればいいではないか！東京から大阪へは新幹線で3時間かからない。飛行機なら1時間だ。一緒に行こうかと妻 [002] に相談すると、意外にもOK。そういうばかばかしい旅も楽しそうだという。



かくして金曜夕方、のぞみは西へと走り、新大阪から東海道線で夕暮れの淀川を越えると梅田。夕食前に西梅田ブリーゼブリーゼの会場へ直行。1階広場に香港がありました。まずはカメラも出さずにゆっくり一点一点見て廻る。ポツポツいる来場者も、うわあ〜とか、スゴイなどと声を出している。うん、それ納得です。ここまで作り込みますか、作家のみなさん。香港にもこんなに突き詰めたミニチュア・ドールハウスを作る作家がいるんだ、と感心。

大坑のファイアドラゴン。獅子舞広場の背後には3階建て古い集合住宅。映画

『新難兄難弟(月夜の願い)』で梁朝偉が梁家輝と劉嘉玲の両親と会った春風街の光景にも似ています。土多(ストア)にはオバQや鉄人28号のオモチャが並び、紙箱にはカタカナが印刷されている、多分60年代ころのひとコマなのでしょう。香港島の西端、摩星嶺の海側断崖に貼りつくように建つ違法バラック。波打ち際には釣り人、道路側では女の子が自転車の行商から何かを買っています。海鮮料理屋の生簀も満漢全席のテーブルも。石硤尾の初期型公営住宅、いわゆる難民アパートに洗濯物がヒラヒラしている下を丸っこい二階建バスが乗客を乗せている。

期せずして大阪の旅。難波道頓堀、中之島、天王寺と阿倍野を歩き、ミニチュアの香港と、香港そしてアジアに通ずる東京とは雰囲気の違うリアルな街を満喫した駆け足旅でした。



あなたの
essential
Hong Kong
香港定番

2冊の本。

[012] 古田 睦子

日本にいる時には、夜になればすぐに手をあげてタクシーをつかまえてしまう怠け者のくせに、あの街にいる時だけはなぜか、まずタクシーは使わずに公共交通機関を駆使しての移動が至福の喜びとなってしまふ不思議な私が香港という魔境では出現します。そして、その移動での必需品といえば、勿論みなさんご存知「香港街道地方指南」なのですが、そのセット商品としてよく割引販売されている「通用乗車地図」が私のもう一つ



のとおき必須アイテムであります。この本では、それぞれの場所、地域別にそこを通っているバス路線の詳細がわかり、路線ごとのバス停まですべて網羅しています。行きたい場所を決めたら、ルートを追ってバスの乗り継ぎを考えていけばもう完璧。この時ばかりは時刻表を眺めて楽しむマニアの方々の気持ちがよくわかるような気がします。この小旅行が体験できるのも、香港におけるバスの本数の多さと交通の便の良さがなせる業ですよね。以前、この調子で、台湾でバスの旅を企ててえらい目にありましたっけ…。それはさておき、計画して行く先は大好きなトレッキング。そこでの指南本は「HongKongHikes」という、10年位前に購入したトレッキング好きの欧米人相手に書かれたと思われる英語本です(発行は香港のようです)。バインダー式でそれぞれが独立していて持ち歩きに便利なことと、普通のトレッキング本にはない素晴らしい特徴。それは、そのコースの最後に必ず食事ができる場所の紹介がついていること。やっぱり、身体を使った後にはご褒美のご馳走が必要ですよ。この本にはずいぶんお世話になり、いろいろな所に行きましたが、難易度の低いコースから始めてきたため、難易度の高いコースしか残らなくなってきたのが最近の悩み。富士山の前哨戦といわれる神奈川の大山にでも登って、体力づくりをしななければならないかなあと思う今日この頃です。

まるで夜行高速バス！ 羽田発着・香港エクスプレス “代理” 搭乗記

[014] 馬利奥：関根 寛

長女(25)がこの2月、友人と海外ディズニーパークの旅を計画。当初の予定・米国行が予算の都合で頓挫、香港ディズニーランド(HKDL)へと目的地変更。そのツアーは、話題の低運賃航空会社・LCC香港エクスプレス(コードUO/HKE)羽田線利用というもの。以下、娘から聞き取った内容を代理レポートいたします。

- 往路 U0623 東京・羽田01：30発→香港05：25着
- 復路 U0622 香港19：05発→東京・羽田 翌00：30着
- 九龍城の富豪東方酒店(旧・富豪啓徳) 1泊分と
諸料金を含むツアー代金 25000円

朝日を浴びて香港へ向け羽田を出発するHKE機。この日は機体のタイトルがグループ会社の「香港航空」となっていますが、LCCでは細かいことは無問題！

親バカ親父は羽田まで車で見送り。成田の約3分の1で行ける近さがいい！チェックイン開始は22：30、預託手荷物は20キロまで無料。ゲートは一番端の105番、LCCだがボーディングブリッジ経由で快適に搭乗が可能。

機材はLCC定番のエアバスA320型。通路を挟んで3席+3席、全174席。HKEによれば、他社より1列少なくして前後のゆとりを持たせたとか。娘には十分なスペース。モニターやオーディオの設備は無し。CAは香港人、アナウンスは英語と広東語のみ。

フライトの少ない深夜、ほぼ定刻に出発。ほどなく有料機内食の販売。娘は予めペットボトルを買ってるので無問題。機内の照明が暗くなり、やっとひと寝入りできると思いきや、再び点灯して今度はグッズ販売が始まる。結局落ち着いて眠れないまま早朝の香港へ。メインターミナルから離れたサテライトに到着。S1バス→東涌→港鐵でHKDLへ。

一行はHKDLホテル1泊を追加、2デイズパスでHKDLを目一杯楽しんだ。パーク内でオクトパスが使えることに感動。そのオクトパスを駆使して市内の移動は港鐵とバスのみ、的士には一度も乗らず。最終日は旺角の倫敦大酒樓で朝飲茶、両替したいという友人を連れて重慶大廈の両替店(しかもレートが良い奥の店)へ案内したというから、娘も知らないうちに成長したのかなあ!?

帰りは夕方5時ぐらいには空港に着きたいので、市内から港鐵で早めに東涌へ向かい、アウトレットで買物のあとS1バスで空港へ。サテライトからの搭乗。3時間余のフライト中、娘は隣席の友人とずっとディズニー談議に花を咲かせていたので余計短く感じたであろう。日付が変わる直前の23：51に羽田着。親バカ親父の車で帰宅できたが、公共交通が終了している深夜の到着はやはり不便。本物の24時間空港実現に向けて本格的な深夜アクセス対策をお願いしたいところ。

★なおHKE羽田線のスケジュールは3月30日より、羽田出発が早朝・香港出発が深夜に変更されております。

- U0625 東京・羽田06：20発→香港09：50着
- U0624 香港23：50発→東京・羽田 翌04：40着

日本語での対応はまだまだのHKEですが、某秘密結社の面々にとって、香港テイスト満載のフライトはかえってテンション高くなれるかもしれません。夜行高速バス感覚で気軽に乗れるHKEを利用して、香港旅を1回増やしてみませんか？



唯一の機内の娯楽(?)機内誌も一応、ありました。その名もズバリ『UO雑誌』。主な内容は広東語と英語による就航地の観光案内。日本人乗客向けとはいえないようです。

理事会より～総会報告 (2014年2月17日開催)

今回会場は虎の門で、中華のお店「源」。壁一面に香港の写真、料理はおいしく価格もお手頃！素敵なお店を手配してくれた小松崎美穂さんに多謝多謝です。当日は総会議事ののち、景品争奪ゲーム実施。報告事項ある方はスピーチ。いつもながらの集まりですが、各テーブルで香港の話に花が咲いていました。パーティ参加者には、当日渡せなかった会員証を今回同封します。

なお、不参加の方には会計報告資料をお送りします。日程が合わずに申し訳ありません。次の機会にはぜひお会いしましょう！

